

# 俣郷

確かな学力・豊かな心・健やかなからだをもち、  
未来をたくましく生き抜く生徒の育成

## 資質？思い？

いよいよ入梅直前というところですね。

ところで「梅雨」と書いてなぜ「つゆ」と読ませるのが諸説あるようですが、その中に梅雨の時期はものが腐れたりするために、ものごとがだめになるという言葉、「漬ゆ」からきたという説があるそうです。

子どもたちは、中間テストや生徒総会が終わり、6月7～8日を中心として行われる、地区中体連大会に向けて練習に励んでいるところです。5月20日は、家庭教育学級の開級式があり、年間計画が決まりました。講師ということで私もお話をさせていただきましたが、人前でしゃべることの難しさを改めて実感したところです。

少し前の話ですが、80歳でエベレストの登頂を行った、三浦雄一郎さんの息子さんと、その登頂に同行した三浦豪太さんの講演を聞く機会がありました。演題は「冒険の遺伝子」。

その中で、「確かに冒険の遺伝子は存在する。しかし、それが特に多くなくても、三浦家のように3代にわたって冒険はできる。目標をしっかりともち、あきらめずにプラス思考で歩み続けることが大切である。」と医学博士と冒険家の二つの顔を持つ方らしい結びでした。



イチローや本田圭佑の例を待たずとも、目標をもつことの大切さはよく知られています。

この講演を聞きながら、夢や希望を実現するためには、その人に備わった**資質**だけではなく、**実現への強い思い**が必要であることを、改めて感じました。

## 《生徒総会～実行に向けて～》

22日に生徒総会を行いました。はじめに吉菫生徒会長が、「自分には関係ないと決して思わず参加して欲しい」と呼びかけ、討議が始まりました。今年の生徒会スローガンは「向上の軌跡」、運動会スローガンは、「Absolute Victory」、文化祭スローガンは「一致団結」に決まりました。全校討議では、自分たちの学校生活で、ここをもっと充実させたいと思う2点、「身の回りの整理整頓」「朝自習の充実」について討議しました。それぞれ具体的な対策が提案されました。「全員が決めたことは最後まで実行し、須木中学校の名前を全国に轟かせよう！！」という生徒会長の熱いメッセージのもと、あとはまさに実行あるのみです。

企画運営をしてくれた生徒会執行部や専門委員長の皆さん、司会をしてくれた富永宰羽君、久保田紗矢さんありがとうございました。



## 《“ここ”食卓から始まる生教育1》

「ここ」とは産婦人科医である内田美智子さんの著書名です。産婦人科医の経験から、「性」と「生」と「食」はつながっていることを強く感じ、食育を推進している方です。ぜひ一読をおすすめします。数回にわたり内容の一部を紹介いたします。今回は、著書の中で引用している、栗原貞子さんの詩を書きます。命の大切さという言葉だけでは言い尽くせない感動を覚えます。(字が小さくてすみません)

生ましめんかな

栗原 貞子



こわれたヒルディングの地下室の夜であった。  
原子爆弾の負傷者たちは  
ローソク一本ない暗い地下室を  
うずめていつばいだった。  
生ぐさい血のおい、死臭、  
汗くさい人いきれ、うめき声。  
その中から不思議な声が聞こえてきた。  
「赤ん坊が生まれる」と云うのだ。  
この地獄のような地下室で、  
若い女が産気づいているのだ。  
マツチ一本ないくらがりどうしたらいいのだろう。  
人々は自分の傷みを忘れて気づかずに  
と、「私が産婆です。私が生ませましょう」  
と云ったのはさつきまでうめいていた重傷者だ。  
かくてくらがりの地獄の底で新しい生命は生まれた。  
かくてあかつきを待たず産婆は血まみれのまま死んだ。  
生ましめんかな 生ましめんかな  
己が命捨つとも